

まず、利子は所得の不公平な分配につながります。このことはある三人の例をれば分かります。三人が全年を使い切るとして、一人は10万、一人は1万の金があり、そしてもう一人には何の金もなかったとします。年率10%の利子により、一人目の金は年度末に11万、二人目の金は1,100、そして三人目は依然としてゼロとなります。同じことが翌年もくと、一人目は121,000、二人目は12,100、そして三人目は同じくゼロです。これだけでも、彼らの差が年々いていくのを取ることが出来ます。こうした好ましくない筋きは、裕福な人物が金をしたにはさらに著になります。例えばその人物が、年の年度末に10万を追加したとしましょう。翌年、彼の金は11万になり、さらにその年度末にも新たな10万を加えると、二年には231,000となっていくます。もしもこの入が、生におけるプラス要素から来るのであれば良いのですが、的にこの合はそういう主をすることは出来ません。人々が利子によって得るカネは、それを借りた人物によって浪、失、あるいは窃盗されたものかも知れませんが、それでも人は利子を支わなければなりません。また、失を出す事に投されたことによって、何も生しないかもしれません。しかし、それらすべてはあまり大したことではありません。その「生要素」が何かを生する、しないにわらず、支わなければならないのです。これはカネの、そしてカネにする支いの独自の一面なのです。これが公平であると言うことはにもできず、それによる果として、所得の不公平な分配が起きるのです。

さらに、入の分配はと共に偏りをしてきます。ある人が百万位、またある人が百、あるいは千位で取引していることを想像してみてください。彼らの利子の差は、年々まりけるでしょう。言いえると、富裕には富が集中し、困はさらに乏になるという富の格差が生ずるです。この方程式には、年加する利子をいけている者は加えられません。この合、利子が上がりけることによって彼らの入はどんどん迫され、偏った所得分配にさらなる拍をかけるのです。

あるの人々は、所得の不均衡な分配はさほど大きなでないとするかもしれません。特に、消の必要性をするマスコミの喧から来る、しい人々にする精神的影だけでなく、市全体にする非常に重要な影があるのです。市においては、いかにある品が社会に必要なものであっても、それは生高を支うことの出来る人々を象に生されます。裕福な人々がSUVなどのガソリンを浪するを要求し、多の支いをいとわないのであれば、（

いくら保守が抗したとしても）それらは生 されるのです。入差が けば くほど、その分より多くの 源が富裕の要求に充てられます。源はある程度「固定」されているため、困へはより少量が充てられることになるのです。さらに、困の消用に充てられる少ない源は全体の供 数をらし、他の商品の 段を吊り上げ、困全体の 状をより 化させるのです。多くの医 は、例えば美容整形手のような、必要不可欠とは言い、富裕に特化したサ ビスを提供します。しかし同に、困に特化し、彼らの必要性を たすような医 のサ ビスを い出すことはとても困 です。市主の において、もしも彼らがそういった必要不可欠なサ ビスを支 うことが出来たなら、期的にそうした医 や、必要性に じた源や低格の商品が えるでしょう。（加えて、所得の格差は民主主の健全性にも い影を及ぼしていますが、このことについては当投稿の を超えるため、ここでは言及しません。）

それに加え、 を抱える困にとって、利子の 担は社会的 的な前をめて困な状とし、富の差をさらに 大させます。どのような人にとっても、利子そのものだけでも困な状をもちたらしめます。しかし、利子の支いこそが、多くの合は滞せず支いけることを不可能とするような、人の が 的の象とされるのです。それは の生 要素であり、富裕がより裕福に、そして 者には大きな 担を すことを します。者の全は、世界で最も裕福な国家であるアメリカが、いかに 国家に成り果てたかについて熟知しているかも知れません。これは下流だけでなく、中流をも影を及ぼしています。一部の哀れな人々は、クレジットカードの支いで最低限度だけ を っても、事 上その残高を支い えることが出来ないことに 付いていません。¹

しかし、もちろんそれが一番こたえるのは一番 しい人々なのです。事、人が しければ しいほど、その信用格付けは 化し、高い利子率の支いが 付けられ、システム上不利な状にされるのです。ミルザ シャハジャハン著 *Income, Debt and the Quest for Rich America: The Economic Tale of Small and Mid-Sized US Cities*²

（入、 、そして富めるアメリカへの旅：アメリカ中小都市の ）は、いかに とそれに伴う利子が「アメリカ中流」を苦しめたかについての研究成果です。下がり を ける作物により借入を余 なくされている小 模主たちの苦境は、そこに しく されています。彼らの多くは、利子の支いが困なことから、所有する 重品を に入れたり、何世代にも渡って受け がれてきた を引き ったりしているのです。シャハジャハンは、一部の困が年の15%以上（大半は8%から12%）を利子の支いのためだけに やしていることを しまし

た。それだけでなく、者によるたびたびの迫 という苦があることは言うまでもありません。シャハジャハンは としてこう述べています：

、そして による重荷は共に、多くの 者にとっては返 のための一生 く苦 が いられました。19901993年の を持つ一世 あたりの平均 32,49\$ドルで、それらの世 の年 100 %に相当したのです。我々の独自の によ 19901993年の一世 あたりの平均 の りは\$ 12,571 でした。こうした 模の は、アルバイトや低所得と合わせると意 消沈させるものであり、打ちのめされるような精神的 境を り出すのです

一部の世 では、利子の支 いに年10 %を やしています。この高利子率は、所得の大部分を む主要因となっているのです

中 模の都市における何百万件にも及ぶ世 の大半は、日々の を得るだけのために努力します。彼らのうちの数千 は、家族への 足な生活の供 や子供たちの高等教育の 用さえもままならないのです。彼らは に かった人生を送り、 と共に死ぬのです。こうした状 は、完全な人生を持たなかったという感情を彼らに抱かせるのです…

これらの世 は 的 の状 に っており、そこからの明らかな脱出口は制度的影 力によって遮断されています。技 の 得や高等教育を受けることは、本物の 会へと く扉を く に成り得ますが、高等教育は高 であり、これらの都市に住む世 の大半にとって手の届かないものです。これらの世 は何かの分野において卓越する 会も、望む地位を手に入れることもできないままにされてしまいます。これこそは、我々の国家の中小 模の都市における、 者 の苦境の 状なのです。

Footnotes:

1

シャハジャハンはこう しています：「大半の世 は、彼らの所得に する による高利子率の支 いによる侵食の度合い 付いていないのです。」 Mirza Shahjahan, *Income, Debt and the Quest for Rich America: The Economic Tale of Small and Mid-Sized US Cities* (Beltsville, MD: Writers' Inc. International, 2000), p. 103.

2

Shahjahan, *passim*.

3

Shahjahan, pp. 224-236.

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/549>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。